

令和 3 年度
事業報告書

自：令和 3 年 4 月 1 日
至：令和 4 年 3 月 31 日

宮城県仙台市泉区上谷刈字向原 3 番地の 30

社会福祉法人 やまとみらい福社会
理事長 早坂 了悦

本部 事業実績報告

社会福祉法人やまとみらい福祉会は、法人開設より11期を終えました。社会福祉を標榜する法人として地域の福祉ニーズに果敢に挑戦を繰り返しておりますが、何より利用者、家族、職員、地域にとって望まれるサービスや支援、法人の在り方を常に念頭に置き事業実施に努めて参りました。

令和3年度は昨期まで続いた新規事業への取り組みから一度距離をとり、既存事業の収益性を含めた人員体制の再評価、修正に注力を致しました。また依然感染が拡大している新型コロナウイルスについては、各事業所長を中心に、リスクを想定した迅速な対応、行政等からの情報収集、事業所間での情報共有等、感染拡大の防止に努めてまいりました。

いずれの事業も、地域に望まれ、ニーズに即した事業であり、順調に歩みを進めております。人材の確保、育成、定着等の諸課題や、現在蔓延している新型コロナウイルスの影響も懸念されますが、あらゆるリスクを想定し、堅実で、着実な歩みを進めて参る所存です。

[社会福祉法人やまとみらい福祉会運営事業]

令和3年度に実施した運営事業は以下のとおり

・第1種社会福祉事業

特別養護老人ホーム抱優館八乙女(長期入所事業)

地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東(長期入所事業)

・第2種社会福祉事業

特別養護老人ホーム抱優館八乙女((介護予防)短期入所生活介護事業)

地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東((介護予防)短期入所生活介護事業)

ヘルパーステーション東雲(老人居宅介護等事業)

ホームヘルパーステーション東雲(居宅介護事業/障害者)

やまとみらい八乙女保育園(小規模保育事業)

やまとみらい南光台東保育園(認可保育園)

就労移行、定着支援事業所オルタ八乙女(障害福祉サービス)

就労継続支援(A型・B型)事業所ワインフォレストセツ森(障害福祉サービス)

・公益事業

ケアプランセンター抱優(居宅介護支援事業)

ケアプランセンター東雲(居宅介護支援事業)

サービス付き高齢者向け住宅東雲(サービス付き高齢者向け住宅)

・収益事業

不動産賃貸業

太陽光発電による売電事業

[各種外部研修・行政等主催研修参加状況]

日時	研修名	参加者	主催
6/16	宮城県社会福祉施設事務担当職員研修	事務職員	宮城県社会福祉協議会

特別養護老人ホーム抱優館八乙女 事業実績報告

特別養護老人ホーム抱優館八乙女は、地域に根ざした社会福祉法人として引き続き、地域に望まれる施設運営を念頭に業務を進めることと、介護の質を上げることへのチャレンジを基本方針として業務執行に努めました。しかしながら、入居者に対する不適切なケアや虐待と疑わしき事例を基とした公益通報に対する対応が年度上半期に集中し、年度途中には前任者の体調不良による施設管理者並びに幹部職員の退職に伴うサービス提供体制の改善を年度後半に行う状況となりました。

入居者の安全確保は、感染症及び食中毒等について、厨房委託業者との連携、全職員参加の予防研修等により食中毒及びインフルエンザの罹患者はゼロでしたが、依然世界的に感染が拡大している新型コロナウイルスの持ち込みの予防対策として、家族の面会制限や来館者に対する検温、うがい、手洗い、マスク着用の徹底、体調不良職員に対する対応等、感染症予防対策に重点的に取組み、これをさらに継続して進めて行くこととしております。また先の事例に伴う仙台市からの指摘事項を基に、職員に対する虐待根絶研修や対策等を徹底し、年度後半から引き続き入居者の安心、安全な暮らしを提供する体制を構築致しました。

嘱託医に関しては、入居者の健康管理体制及び看取り体制も支障なく執行できています。令和3年度に施設退所された方は27名、内看取り介護同意の方は17名でした。認知症の入居の方への精神科クリニック医師による月2回の診察・指導に加え、歯科医指導による口腔ケアの取組みも継続して行っております。

令和3年度の利用実績

[入居者の要介護度別年齢]

	要介護1	2	3	4	5	平均	
	年齢	年齢	年齢	年齢	年齢	介護度	年齢
男	—	94.0	78.9	83.3	80.5	4.4	81.4
女	—	81.4	88.0	91.3	87.9	4.0	89.2
計	—	81.4	86.5	89.9	85.5	4.1	87.5

[特別養護老人ホーム抱優館八乙女利用実績] 全80室 平均入居者74.6人 稼働率93.3%

月	平均入居者数	稼働率	月	平均入居者数	稼働率
4月	79.7名	99.7%	10月	72.8名	91.0%
5月	78.7名	98.4%	11月	74.1名	92.7%
6月	76.0名	95.0%	12月	72.8名	91.0%
7月	72.4名	90.5%	1月	73.3名	91.7%
8月	72.0名	90.0%	2月	75.0名	93.8%
9月	74.0名	92.5%	3月	74.5名	93.1%

(介護予防) 短期入所生活介護抱優館八乙女 事業実績報告

利用者像の多様化と重度化が進行し、入居者に対応した介護職員のスキルアップとご利用者の希望に直ちにミスなく対応できる体制が強く求められています。短期入所生活介護部門(ショートステイ)は、在宅の方が利用対象であり、地域のケアマネージャーなどとの連携が課題です。そのことを念頭に、「在宅支援」と位置付け、抱優館八乙女が地域福祉拠点として、地域包括ケアに果たす役割を担うこととしております。その結果、平均稼働率は、目標の90%に対し、87.4%となりました。こうしたことから、今後の職員の成長を期するとともに、地域に信頼されるショートステイの構築に努めて参りたいと思っております。

[(介護予防) 短期入所生活介護抱優館八乙女利用実績] 全20室

平均月延べ利用者数 513.5人 稼働率 87.4%

月	延べ利用者数	稼働率	月	延べ利用者数	稼働率
4月	539名	89.8%	10月	549名	88.5%
5月	538名	86.8%	11月	508名	84.7%
6月	534名	89.0%	12月	507名	81.8%
7月	566名	91.3%	1月	520名	83.9%
8月	529名	85.3%	2月	498名	88.9%
9月	539名	89.8%	3月	552名	89.0%

抱優館八乙女サービス提供実施状況

住まいづくり：各ユニットにおける生活環境の適正化に努め、ワインフォレストによる清掃に加え、ユニット内外の取組みで環境整備を行い、厚みのあるケア体制作りを進めることができました。また安全衛生委員を中心に4S活動等環境チェックを実施し、環境美化に取り組ましました。また事務職員の当番制でのトイレや給湯室の定期清掃、マスク・手指消毒剤等の点検・補充に努め、環境美化と感染症予防に取り組ましました。

安全・安心な美味しい食の提供：産直米・産直野菜の使用と日清医療食品の協力、管理栄養士のミールラウンドによる嗜好調査、季節の料理提供等、安全で美味しい食の提供に努めましました。

チームづくり：2度の職員面談やユニットリーダーとの個別面談、諸会議などを積み重ねて業務課題の抽出を行い、情報伝達や記録方法のデータ化等、業務全体の改善定着を図りました。

しかしながら、上半期には先の総論でも述べた職員による入居者に対する不適切ケアの発生に伴う管理層の連鎖的な退職によるチームの再構築を余儀なくされ、介護の質による成長にフォーカスができない年度後半となりました。特に非正規による雇用の比率も年度を通し直接雇用に切り替えや退職者を出さないようこまめに個別面談や外部メンターを導入することにより、比率の改善に努め、次年度以降のチームケアに向かえる体制づくりに心がけてまいりました。

リスクマネジメント：リスクマネジメント委員会をはじめとする委員会設置とその活動は、年々、重要性を増しています。毎月の事故報告やヒヤリハット事例の検討をもって、点検と対応に努めました。特に、誤薬・服薬ミスは入居者の健康維持上重要であることから、看護・介護に加え、嘱託医等の多・他職種との連携によって改善し、発生予防のために服薬マニュアルの再度の作成と研修を実施し、人的ミスの防止に努め、減少化しております。

人材採用・育成：8月より施設管理体制の変更に伴う該当項目の方針を新規採用から定着支援に重点置き、離職率の改善、人材派遣会社の利用率の減少に注力をし、正規雇用率を高めることで、再度施設が求めるケアや入居者の安心、安全な暮らしを業務としてではなく、内発的動機に置き換え業務にあたるよう、面談などを通じたヒアリング、係長職の変更に伴うケア指導体制の変更を通じ、標準的な業務を行える体制づくりを徹底してまいりました。その一方で、新卒採用や次年度以降の外国人材採用に向けた取り組みも行い、次年度以降の採用育成体制に対する構築に目処をつけることができました。また、多くの介護施設が職員不足に喘ぐ中、仕事に対する業務標準体系の確立、それに伴う評価制度の構築を行うことで、入居者やご家族、地域に向き合える環境を整備し、研修や介護マニュアルのゼロベースからの改善を次年度以降行うことによって、さまざまな多様性に対応出来る職員の帰属意識の醸成と適切なケアの実現に努めて参ります。

抱優館八乙女各種委員会活動報告

●リスクマネジメント委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計12回

【本年度の取り組み】

- ・情報を正確に伝えるための技術アップ（正しい時間や内容の共有）
- ・リスク回避をするためにヒヤリハット報告件数を増やして現場での気づく目を増やすこと
- ・事故報告書の書き方の統一
- ・委員会や研修を通して、職員のレベルアップを図ること

を目標に掲げ取り組む。各ユニットによって、事故発生内容も違い、同じような事故が再発していたりユニットにより、回避するポイントは違うが、リーダーが中心となり、現場で利用者・入居者様に合わせた事故回避対応等、ヒヤリの密な情報共有については前年度より取り組めていたと感じる。

骨折事故も多く、施設内研修では基本に立ち返り、リスクマネジメントの基本・当施設での事故発生防止の指針を参加者に読んで知ってもらい、動画を活用し基本を学んでもらった。

また、冬には入居者様の呼吸停止事案があり、緊急時対応マニュアルの作成とユニットへの設置の実行と施設内研修としてAEDの使用方法や心肺蘇生法について看護師協力の元、開催した。

事故報告書に関しては、三崎係長中心に作成手順書を配布。

【反省】

各ユニット職員の成長も違う中、支援の底上げには、長期的に見ていかなければならず、著しい結果には至らなかった。来年度も委員とリーダーを中心に、より密にユニットでの課題にも向き合いながら、ひとつでも未然に防げるものを回避していけたらと考える。骨折事故案件や呼吸停止事案、虐待事案も続き、職員が萎縮してしまう出来事も多かったが、各ユニットの委員が中心になり、少しずつではあるが、前向きに取り組めたと感じる。薬関係は、職員の意識的な取り組みで絶対回避できる事故案件のため、引き続き、意識的にゼロを目標に取り組んでいきたい。来年度もユニットにより、リスクマネジメント内容が違うと思うが、入居者様の快適な生活の支援・苦痛な思いや嫌な思いをさせないなど、誰のためにリスクマネジメントていくのか、目指すところは同じはずなので、施設全体で同じ意識を持って、来年度も取り組み、目に見えて結果に繋がるような年度にしていきたい。

●感染症予防対策委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計6回

【本年度の取り組み】

- ・佐藤栄養士からの食中毒に関する勉強会の実施。
- ・国内および県内の新型コロナウイルス感染状況の確認及び面会制限実施。状況に応じて臨時感染委員会を開催し、面会制限や外部サービス導入の検討を行う。
- ・嘱託医より感染状況や新型コロナウイルスについての勉強会の開催をする。
- ・外部講師（サラヤ株式会社後藤様）を招いて手洗い研修やガウンテクニックの講習を行う。（コロナ感染拡大の為3回予定していたところ1回のみの実施となる。）
- ・感染対策物品の購入及び管理

【反省】

- ・9月より面会制限や外部サービスの制限について討論し、緊急事態宣言や蔓延防止等充填措置が発令されれば制限を掛けるという対応をおこなっていたが、変異株の発生に伴い、感染経路も異なる事が増えてきたため、状況に応じた柔軟な対応が必要であった。
- ・新型コロナウイルスや食中毒に関する研修は数回行っていたが、吐物処理に関する研修が実施できていなかった。
- ・外部講師を招いての研修が新型コロナウイルスの感染状況によって実施できている時と出来ていない時がある為、状況を把握して実施できるように調整していく。
- ・新型コロナウイルス感染状況を感染委員会以外の職員が把握できる機会がなかったため、月に1度程度で広報を発行できるようにしていく。

●身体拘束廃止・ケア向上委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計5回

【本年度の取り組み】

身体拘束廃止に向けた基本的な知識、ケア向上のための基本的な知識の習得
ユニット毎の身体拘束の状況、身体拘束廃止・ケア向上のための年度内2回の研修
特別養護老人ホームや介護職員としての役割

【反省】

今年度身体拘束に該当するような事例は発生しなかったものの、グレーゾーンに該当するようなケアが該当するユニットがあった。グレーゾーンに該当するようなケアをなぜ行っているのか、該当ユニットの職員が説明することは可能だが、記録として残せていないケースが見られた為、次年度は記録の重要性についても話をしていきたい。

研修の内容も職員がただ内容を読むだけの単調なものになってしまいがちな為、研修の内容も今後検討する必要があると考える。

●虐待防止・ケア向上委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計7回（緊急開催1回含む）

【本年度の取り組み】

- ・施設内で研修を実施し、不適切なケアやグレーゾーンについて学んだ。また、研修中に他職員の意見を聞く事で様々な考え方を学んだ。ユニットからも、研修を受け改めて考える事が出来たと報告あり。
- ・職員へのストレスケアについても委員会の中で考える時間を作り、実際にどういう対応があるかを発信できた。
- ・実際に起こった、不適切なケアで出来てしまったであろう内出血について、リーダーを中心に話し合いを行い、各ユニットでのケアや入居者様の身体の観察に繋げてもらうよう発信することができた。

【反省】

- ・実際に不適切なケアで出来てしまったであろう内出血が発見されてしまった。今後同じ事が無いよう、引き続き研修等を行って虐待防止を徹底してほしい。
- ・研修を行う事はできたが、出席人数が少ない時もあり、全職員に研修の内容を伝える事が出来なかった。
- ・委員会の中で、「座学研修が多い。」という意見があった為、今後は実際にスピーチロック等を体験してもらうような研修も考える必要がある。

●栄養管理委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

※日清医療食品栄養士、調理師

【開催日】

計12回

【本年度の取り組み】

・行事食

(たけのこ弁当、昭和メニュー、こどもの日、牛肉ど真ん中弁当、七夕、土用丑の日、お盆精進料理、ミニ納涼祭、敬老会、芋煮会、海鮮丼、冬至、クリスマス、餅つき、年越し、おせち料理、七草がゆ、節分、バレンタイン、寿司の日、ひな祭り、ひな祭りビュッフェ)

- ・各ユニットからメニューや行事食、提供方法についての協議事項を持ち寄り委員会内で検討を行った。
- ・ユニットや厨房の衛生管理の実状を確認し、改善すべき箇所や重点的に清掃すべき箇所を委員会内で共有した。
- ・夏季期間は特に食中毒の発生状況やトレンドについて情報を落とし留意点や予防策について周知した。
- ・11月に嗜好調査を実施し、1月に結果を報告、厨房へのフィードバックを行った。
- ・ユニット内で毎日記入している衛生管理表、中心温度記録表のチェックと回収。

【反省】

- ・コロナ禍で2年が経ち、外食ができない分、施設内でできる行事食やユニットの行事食を増やし内容も工夫している。来年度はさらに入居者様や利用者様参加型(調理に携わる)の行事を考案していきたい。
- ・毎月各ユニットや厨房から問題点や協議すべき課題を出し合い、早い解決策を見いだせたことは評価すべきであり、今後の委員会活動でも継続していきたい。
- ・行事食の立案、実施、反省を毎月行い、それを中心に活動しており、衛生管理状況については疎かになっている。新しい職員が増える来年度は衛生管理にも比重をおきバランスよく活動していきたい。

●排泄・褥瘡予防委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計12回

【本年度の取り組み】

排泄目標：下剤以外での排便の取り組み、パットに失禁しないトイレ誘導

褥瘡予防目標：乾燥をさせない為の保湿支援

【反省】

コロナ禍ではなかったがオンライン研修、オンラインでの会議参加、といった試みを通して新しい形での委員会の開催、研修の実施を行うことが出来た。

委員及び出席者より積極的に排泄支援及び褥瘡予防に関して質疑応答、意見交換がみられる場面が多々あり、本来の意味での委員会活動が行えていたと考える。

今後は多く希望が出されていた排泄支援(オムツ当て、陰洗等)に関する研修を具体的にどのように実施し、効果を上げていくかを検討、実施していくことが課題と考える。

また、実際に研修や勉強会を実施する際には委員だけではなく広く職員に参加してもらえような枠組みや充実した研修内容の立案も必須と考えている。

●行事企画・広報委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、総務職員

【開催日】

計 12 回

【本年度の取り組み】

初めて6月のクラブ活動で音楽ケアとしてブンネ・メゾットを弾き楽しまれ7月には七夕飾り8月には納涼祭9月には敬老会12月にはクリスマス、餅つき3月にはおやつバイキングと年間を通して簡素化や縮小等があったが無事開催した。

各ユニットでも工夫し装飾や雰囲気づくりに取り組んだ。

面会の制限がありご家族様に日ごろの入居者様の様子をお伝えする為お便りやニュースレターを活用し作成した。

【反省】

コロナ禍だった事もあり大きな行事はほとんど縮小や簡素化だったがどの行事も無事事故もなく成功させることが出来た。

コロナ感染対策に万全を期して感染者を一人も出す事無く委員会が活動出来た。

各ユニットでも季節感を感じる装飾や催し等に取り組み出来たユニットが多い一方で取り組みが不十分なユニットもあった。

入居者様の近況報告としてニュースレターやお便り等を活用しご家族様に好評だった。

コロナの終息次第ではあるが例年通りの通常開催できるように各行事に万全を期して取り組みたい。

●安全衛生委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援係長、介護支援係長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、総務職員

【開催日】

計 12 回

【本年度の取り組み】

- ・今年度はコロナウイルス予防の観点から奇数月に4S（整理・整頓・清掃・清潔）チェックをフロアごとに実施し、偶数月の委員会内で報告、各フロア内の危険個所等の確認を行い、労働環境の整備・向上に努めた。
- ・年間計画の内容で、資料を用いた座学を実施し、「がん予防」や「腰痛予防と対策」等の一般知識で調べられる項目に関しては、他委員に月ごとに担当し座学を実施、委員の知識の向上を目指し、ユニット内での周知を行った。

【反省】

- ・定期的な 4S チェックにより各フロア内の危険箇所等は徐々に改善されつつあるが、細かな部分での指導箇所は 4S チェック時に毎回見られる為、委員会後の委員による各ユニットへの再指導や前回の記録を持つての 4S チェックの実施に力を入れる。

●防災対策委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援課長、介護支援係長、相談支援係長、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員、総務職員

【開催日】

計 7 回（緊急開催 1 回含む）

【本年度の取り組み】

- ・大きな地震に備え、居室内・フロア内の環境整備を行えるようにチェック表を作り確認を行った。また、新規入居の際もその表をもとに環境整備を行うようユニットで対応していた。また、その際の職員の動きについても再度確認し対応を決める事ができた。
- ・新型コロナウイルスの影響で避難訓練が行えておらず、委員のメンバーも知らない人がほとんどだったが、委員会の時間を使って、委員にはレスキューシートの使用方法や避難経路、避難時の対応について研修を行った。

【反省】

- ・本来であれば、年に 2 回の避難訓練を行わなければならないが、新型コロナウイルスの影響もあり行えておらず。令和 4 年 3 月の 17 日に施設内での避難訓練を実施する予定だったが、前日の 23：30 頃の大きな地震の影響で行えず。本年度、最低 1 回は避難訓練を実施していきたい。
- ・緊急連絡網が新しくなったため、昨年度は行っていないが、緊急連絡網を使用した訓練も実施していきたい。
- ・委員会を通して入居者の避難方法やレスキューシートの使用状況を確認しているが、更新されていない事が多く見られていた。今後も委員会を通して周知し、更新漏れがないようにしていきたい。

[各種外部研修・行政等主催研修参加状況]

日時	研修名	参加者	主催
5/25	令和 3 年度 「介護職御スキルアップ研修」 (第 1 回)	介護職員	仙台市健康福祉事業団介護研究室
6/10	令和 3 年度 「介護職御スキルアップ研修」 (第 2 回)	介護職員	仙台市健康福祉事業団介護研究室
6/11	令和 3 年度 リーダーの為のコーチング研修	介護職員	宮城県社会福祉協議会
6/29	令和 3 年度 クレーム対応研修	介護職員	宮城県社会福祉協議会
7/13	高齢者権利擁護・虐待対応基本研修	生活支援係長 介護職員	宮城県社会福祉士会
7/14	令和 3 年度 「介護職御スキルアップ研修」 (第 4 回)	介護職員	仙台市健康福祉事業団介護研究室
7/15	認知症介護基礎研修	介護職員	公益財団法人仙台市健康

			福祉事業団
7/21	コミュニケーション技術・対人援助技術研修 (基礎①)	介護職員	宮城県社会福祉協議会
8/23	実務者研修	介護職員(3名)	日研学院
10/29	第1回 施設長研修会	施設長	仙台市老人福祉施設協議会
11/11~	介護職員初任者研修	介護職員	ジョブカレッジ仙台
11/11	記録の要点とチームケア	介護職員	宮城県介護福祉士会
11/14	介護職種の技能実習指導員講習	介護支援係長 介護職員	公益社団法人日本介護福祉士会
11/26	介護現場における医学的基礎知識②	介護職員	宮城県介護福祉士会
12/4	指導者のための介護技術	介護職員	宮城県介護福祉士会
12/8	認知症介護基礎研修	介護職員	公益財団法人仙台市健康福祉事業団
12/9	介護現場における医学的基礎知識	介護職員	宮城県介護福祉士会
12/14	セーフティマネジメント	介護職員	宮城県介護福祉士会
1/20	令和3年度 アサーティブ研修	介護職員	宮城県社会福祉協議会
2/11	アセスメント研修会	介護支援専門員	宮城県ケアマネジメント協会
2/4	令和3年度 第3回介護福祉士養成施設実習指導者研修	介護支援係長	一般社団法人宮城県介護福祉士会

内部研修報告

開催日	研修名
6/10.17.24	第1回 虐待防止・ケア向上研修①
7/13.21.29	リスクマネジメント研修
7/14.22.26	感染予防研修
8/5.12.26	第1回 身体拘束・ケア向上研修②
12/6.9.16	第2回 虐待防止・ケア向上研修①
12/21	排泄研修
3/14.24.30	第2回 身体拘束・ケア向上研修②

地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東 事業実績報告

- ① 昨年に続き年度当初より、新型コロナウイルス感染症に伴い、ショートステイの新規受入れ制限、ご家族様との面会制限、利用者様への外出支援や集団での行事の自粛と、様々な制約の中、感染症に伴うBCPの作成、平時からのシミュレーション等予防策を講じ利用者様、職員とも感染者を出さず事業を実施してまいりました。
- ② 地域密着型サービス事業所に義務付けられている「運営推進会議」はコロナウイルスの影響により開催を全日程中止。文書照会にて行いました。
- ③ 近隣住民等との親睦の為、地域交流スペースを利用した「ひまわりサロン」「やまとみらいにぎわい食堂」についてもコロナウイルスの影響により開催を見送りました。
- ④ 各専門職種と介護職員が一体となり運営体制を整備してきました。介護職員の募集については現在も継続しておりますが、入居者の受入れについては順調に推移しました。

令和3年度の利用実績

[入居者の要介護度別年齢]

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均
男性	-	-	88.5歳	81.2歳	77.1歳	81.5歳
女性	-	-	90.5歳	90.0歳	86.1歳	88.9歳
合計	-	-	90.1歳	89.3歳	84.3歳	87.8歳

[地域密着型特別養護老人ホーム抱優館南光台東利用実績] 全29室

・平均入居者 28.1人 稼働率 97.2%

月	平均入居者数	稼働率	月	平均入居者数	稼働率
4月	28.9人	96.6%	10月	28.7人	99.2%
5月	27.1人	93.7%	11月	28.6人	98.7%
6月	27.9人	96.4%	12月	28.0人	96.7%
7月	28.0人	96.6%	1月	28.3人	97.7%
8月	28.0人	96.6%	2月	28.5人	98.4%
9月	28.0人	96.6%	3月	28.6人	98.7%

[(介護予防)短期入所生活介護抱優館南光台東利用実績] 全10室

・平均月延べ利用者数 299.9人 稼働率 98.6%

月	延べ利用者数	稼働率	月	延べ利用者数	稼働率
4月	289名	96.3%	10月	299名	96.4%
5月	321名	103.5%	11月	291名	96.7%

6月	307名	102.3%	12月	272名	87.7%
7月	334名	107.7%	1月	289名	93.2%
8月	338名	109.0%	2月	268名	95.4%
9月	312名	104.0%	3月	288名	92.9%

抱優館南光台東各種委員会活動報告

●リスクマネジメント委員会

【構成メンバー】

施設長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、介護職員

【開催日】

月1回 計11回（8月のみコロナウイルスにより開催見送り）

【本年度の取り組み】

- ・委員会の目的と役割の確認
- ・事故報告書作成の手順の作成と配布
- ・情報の共有、再発防止策の効果の確認までの流れの文書化と周知
- ・転倒転落アセスメントシートの活用と離床センサー設定状況の定期的な確認
- ・ユニット内テーブル、椅子の定期点検の実施
- ・ヒヤリハットの共有のアナウンス、啓発の掲示
- ・入浴機器のメンテナンス依頼
- ・車椅子の点検のアナウンス
- ・開催ごとの直近の事故報告内容の共有と検討
- ・前年度、今年度の事故件数、ヒヤリハット件数の集計と統計

【反省】

今年度の介護事故発生件数は79件、ヒヤリハット報告件数は105件。介護事故の内訳としては、転倒・転落・ずり落ちに関するものが39件、内出血、擦過傷等の外傷が13件、誤嚥が2件、主に落葉の発見等の内服支援に関するものが15件、その他が10件であった。そのうち、仙台市へ報告した重大事故については、骨折事故の1件であった。

年度当初に事故報告書の作成手順、再発防止策の検討からその効果の確認までの流れについて周知すると共に、情報の共有、事故発生を未然に防ぐためにヒヤリハットの重要性について委員会より啓発し、全職員が共通の認識で取り組み、対応することができた。

転倒・転落アセスメントシートの導入、離床センサー設定状況について都度委員会で確認し、設定状況の曖昧さをなくすことに努めた。その他、ハード面の定期点検を一部で習慣化できた。

職員研修について、開催に至らなかったことからを反省し、次年度においては実施していく。

●感染症予防対策委員会

【構成メンバー】

施設長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、看護師、介護職員

【開催日】

計5回 （3ヶ月に1回、第2火曜日）

【本年度の取り組み】

- ・年2回の感染対策研修 8月…図上訓練（新型コロナウイルス感染陽性者出現時の対応）
11月…新型コロナウイルス感染対策について（外部講師）
- ・年間目標と活動計画の作成
- ・膀胱留置カテーテル者の尿廃棄方法の変更とマニュアル作成
- ・部署毎の消毒・換気チェック表を作成し、施設館内の消毒・換気の徹底啓蒙
〈新型コロナウイルスに対する感染対策〉
- ・予防接種の実施
- ・入口玄関パーテーション再構
- ・市が発表するまん延防止等重点措置に合わせた面会制限の実施
- ・会議室を陽性者病床に見立てたゾーニング作成
- ・感染防護用物品補充
- ・新型コロナウイルス感染対策マニュアル整備
（利用者情報シートの作成、ゾーニングの整備確立等）

【反省】

前年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染対策に翻弄される1年であったが、標準予防策をベースとし、感染のあるなしに関係なく、感染があるものと考え、適切に対応する事で感染者「0」を達成する事が出来た。しかし、年間計画にあった新型コロナウイルス陽性者出現時の実践シミュレーションが出来なかった事が反省点であり、次年度早急に実施する必要性がある。

高齢者施設は職員の感染源持ち込みが発症の原因となる事が多く、クラスター化しやすいという特徴を持っている為、職員への正しい感染対策教育が最も重要である。自施設で陽性者が出現した場合、更に対策にスピードも求められる為、実践的シミュレーションの訓練を積み重ね、次年度も感染者「0」を目標に、万全に備えたいと考える。

●身体拘束・虐待防止・ケア向上委員会

【構成メンバー】

施設長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、看護師、介護職員

【開催日】

計4回

【本年度の取り組み】

- ・第1回研修 令和3年6月7日(月)、26日(土)実施
ミニドラマ(DVD)で考える「介護職員の約束事」・身体拘束の排除・高齢者虐待防止
身体拘束とは何か？なぜ、身体拘束をしてはいけないのか？家族に拘束排除を理解してもらうためにはどうしたら良いか？虐待をしない為に気を付けることは何か？職員の行動の問題点はどこか？どのような行為が虐待に当たるか？について、意見を出してもらい、最後に事例に対する対応のまとめを行った。
- ・第2回研修 令和4年2月24日(月)、28日(金)実施
「虐待はなぜ起こるのか」～ストレスについて学ぶ～(E-carelabo使用)
虐待の基礎知識：虐待防止を学ぶ大切さ、時代的变化、目を向ける虐待、虐待が起こる原因について

学んだ。

ストレスについて：対人援助職はなぜストレスを抱きやすいのか、ストレスとは何か、ストレスへの対処（ストレスコーピングの実践：腹式呼吸）を学んだ。

【反省】

- ・E-carelabo の使用によりほぼ全職員が参加することができ、各自の意見や感想を共有できたことにより、自身のケアに対しての気付きや参考になることもあったと思う。
- ・原因不明の内出血や声掛けなどにまだ注意や工夫を要する点もみられ、再度、振り返りながらより良いケアが行えるよう取り組んでいければと思う。

●栄養管理委員会

【構成メンバー】

生活相談員、介護支援専門員、看護師、管理栄養士、介護職員、（受託先）日清医療食品㈱ 調理員

【開催日】

計11回（2月、未実施）

【本年度の取り組み】

- ・毎月の行事食立案、実施、反省、行事委員会との連携。
施設開催（お弁当の日、土用丑の日、居酒屋（納涼祭）、敬老祝い食、クリスマス会、おせち料理、七草粥、節分デザート、ひな祭り等）
ユニット開催（春のデザート祭り、父の日、母の日、芋煮会、天ざるの日、ひな祭りイベント、鍋の日、バレンタイン等）
- ・嗜好アンケート（職員、利用者）4月～5月に個別聞き取りにて実施。
- ・食中毒、ユニット衛生管理（清潔保持）についての全体研修はコロナ研修のため実施出来ず委員会内で委員、他職員に向けて、食品の取り扱いについて周知。
- ・食事配膳時の入居者様に対する配慮について、資料作成し配布、周知。
- ・常食とソフト食の食事形態について、使用食材の検討。
- ・実施予定献立表を元に反省改善点等、意見交換。より良い給食の提供を目指す。
- ・ユニットで使用する“とろみ剤”の再検討。来年度より変更予定。

【反省】

- ・ソフト食の使用食材や調理方法について、都度見直しを行うも統一されず。委託側とは提供前日に再度打ち合わせは必須。
- ・コロナ渦の影響もあり昨年度よりユニット毎の行事食実施が多くなってきていた。多くの職員がユニット開催にも慣れ、委員会メンバー以外からも企画、希望等多く聞かれるようになり、ユニットのみで計画、準備から実施まで行えるようになってきている。行事への協力体制が整いつつある。
- ・受託側の日清医療食品の人員不足のため常にヘルプ職員が配置になっている。施設の利用者様を把握されていないため、調理方法、配膳方法等の統一がされず、味の低下、配膳の間違いが多く見られる。指導方法、申し送り方法等、改善を依頼するも年間通して改善されず。
- ・来年度は委託から直営へと切り替わるため、安定した給食提供できるよう努力する。

●排泄・褥瘡予防委員会

【構成メンバー】

施設長、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、看護師、介護職員

【開催日】

計 12 回

【本年度の取り組み】

- ・年間目標と活動計画の作成
- ・皮膚状態の報告⇒毎月報告し、状態の把握と原因の分析、対策について検討。
- ・パッドの使用状況報告⇒排泄の状態に応じてパッドの使い方、交換時間統一、周知。
また、排泄支援に検討が必要な場合の検討。
- ・防水シートが殆どセットされていたため、ユニット毎に検討し必要な方のみに変更。
- ・膀胱留置カテーテルを使用の場合、尿量に応じた尿破棄の時間とタイミングの確認、変更。
- ・ユニ・チャーム様よりアドバイスを頂きながらパッドの使用方法確認。小パッドが生産中止になった場合の代替えとしてパッドコンパクトのお試し使用。
- ・褥瘡発生の有無と状態の報告。
- ・ブレデンスケール個別の評価⇒3ヶ月毎にユニットの委員が評価。ユニット会議で評価の結果をユニット会議で報告し、高リスク者を確認。

*研修①排泄ケア研修「パッドの特徴と正しい当て方」・ユニ・チャーム横田様 1/13 1/31

②「褥瘡予防ケア」褥瘡発生～対策まで・排泄・褥瘡予防委員渥美清美 5/27 7/30

【反省】

皮膚の状態は、保湿や発赤など皮膚トラブルの観察と報告が適切に出来たため、大きなトラブルはなかった。しかし、個人差があるため対応は個々に応じて必要だった。

パッドに関しては昨年度、新しいパッドを取り入れてから臨機応変に使用されているが、尿量測定を行ってから変更した場合と測定せず変更していた場合があり、徹底されなかった。褥瘡については、昨年同様、臥床時間が長くなった場合、踵などの見えにくい部位での発生があり、大きな反省点として来年度の課題に残った。

研修は2件とも日常のケアに必要な重要な内容で、為になったとの感想が聞かれ良かった。

今年度の反省から、委員が中心となり排泄と褥瘡予防に関して意識してユニットに働きかけていけるよう、来年度も取り組んでいきたい。

●行事企画・広報委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援課長、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員、介護職員

【開催日】

計 12 回

【本年度の取り組み】

- ・4月 春のデザート祭り
- ・5月 母の日
- ・6月 ユニット行事
- ・7月 天ざる蕎麦

- ・8月 納涼祭・居酒屋
- ・9月 敬老会
- ・10月 芋煮会
- ・11月 サンマ祭り
- ・12月 クリスマス会
- ・1月 餅つき・餅花作成
- ・2月 節分・鍋
- ・3月 ひな祭り・ユニット行事

【反省】

今年度も新型コロナウイルスの影響により十分な注意を払い行事を行いました。
 毎年恒例の納涼祭・敬老会・クリスマス会等の施設全体で行う行事は規模の縮小やユニット毎の開催になりましたが入居者・利用者の方々も楽しめていたのではないかと思います。
 今年度は春のデザート祭りや秋にサンマ祭りなどの新たな行事を開催し皆様に好評だったので反省点を活かし次年度も継続して行っていききたいと思います。
 来年度もどのような状況になるか分かりませんが、コロナウイルス対策は必須となっていくことから、委員会全体で話し合い安全・安心に施設全体で出来る行事を考えていききたいと思います。

●防災対策委員会

【構成メンバー】

施設長、生活支援課長、生活相談員、管理栄養士、看護師、介護職員、総務職員

【開催日】

計4回

【本年度の取り組み】

- ・消防・防災訓練の実施（7月27日、12月9日）
 7月27日、総合訓練（夜間想定）にて実施。
 12月9日、自主訓練（夜間想定）にて実施。
- ・避難誘導時の移送区分(担送、護送、独歩)の表示。
- ・車椅子のフットレストの置き場所を全ユニット統一。

【反省】

- ・職員のミスや利用者様がコードを切ってしまうなど、人為的な事故による電子機器の故障（ラミネーター、卓上食器乾燥機）があり、火事の危険があった。その都度、使用上の注意喚起を行ったが、継続して注意を促していきたい。
- ・災害発生時の業務継続に向けた取り組みの強化、研修を実施できなかった為、来年度進めていきたい。
- ・防災に関する知識を周知するために、イーケアラボ（動画）等を使った研修の実施も検討していく。
- ・3月17日に震度6の大きな地震が発生した。エレベーター停止時の2階からの避難方法など、設備上の懸念点が再浮上したため、早急に解決できるよう努めたい。

[各種外部研修・行政等主催研修参加状況]

日時	研修名	参加者	主催
11/11～	介護職員初任者研修	介護職員	ジョブカレッジ仙台

ヘルパーステーション東雲（訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業）事業実績報告

新型コロナウイルス感染症対策として、職員は出勤前の検温、マスク着用、手洗いの実施を行い、感染予防の観点から衛生用品の準備や使用方法について指導を行いました。利用者宅を訪問する際は、訪問時の体調確認、事前検温実施の依頼、マスク着用と定期的な換気を実施のもと、サービス提供にあたりご協力頂きました。また、同居されている家族や県外から帰省されるご家族においても体調確認等を行い、職員からは感染者を発生することなく過ごすことができました。しかしながら、併設するサービス付き高齢者向け住宅において新型コロナウイルス罹患者が発生し令和4年1月末から3月上旬にかけて既存の利用者へのサービス提供を自粛致しました。引き続き、利用者が居宅において、安心、安全に自立した生活が営むことが出来るように、ニーズの取りこぼしが無いよう迅速に関係機関と連絡を図り、サービス提供にあたってまいります。

また、人材育成に関しては感染状況を踏まえオンライン研修、事業所内研修を取り組み、介護事故や苦情等もなくサービス提供を実施することができました。

（重点目標と課題）

- ・人材育成と雇用の拡大を図り、新規利用者の獲得に向けた営業の確立
- ・感染症対策と介護事故防止策の見直し。罹患者に対する訪問介護サービスの継続的な提供

令和3年度利用実績

訪問介護（サービス付き高齢者向け住宅東雲入居者） 平均利用者数 24名 平均介護度 1.7

	要介護1	2	3	4	5	合計
4月	14名	6名	1名	3名	0名	24名
5月	13名	6名	1名	3名	0名	24名
6月	15名	4名	1名	3名	0名	23名
7月	15名	5名	1名	3名	0名	24名
8月	15名	5名	1名	3名	0名	24名
9月	13名	6名	1名	3名	0名	23名
10月	15名	5名	1名	3名	0名	24名
11月	15名	6名	2名	3名	0名	26名
12月	15名	6名	2名	3名	0名	26名
1月	15名	6名	2名	2名	0名	25名
2月	14名	5名	2名	2名	0名	23名
3月	14名	6名	2名	2名	0名	24名

訪問介護（在宅利用者） 平均利用者数 3名 平均介護度 2.1

	要介護1	2	3	4	5	合計
4月	2名	0名	0名	0名	1名	3名
5月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
6月	2名	0名	0名	0名	1名	3名
7月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
8月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
9月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
10月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
11月	3名	0名	0名	0名	1名	4名
12月	2名	0名	0名	0名	1名	3名
1月	2名	0名	0名	0名	1名	3名
2月	0名	0名	0名	0名	0名	0名
3月	1名	0名	0名	0名	1名	2名

介護予防・日常生活支援総合事業（サービス付き高齢者向け住宅東雲入居者） 平均利用者数 5名

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
4月	1名	1名	3名	4名
5月	1名	1名	3名	4名
6月	1名	1名	4名	6名
7月	1名	1名	4名	6名
8月	1名	1名	4名	6名
9月	1名	1名	4名	6名
10月	1名	1名	3名	5名
11月	1名	1名	3名	5名
12月	1名	1名	3名	5名
1月	1名	1名	3名	5名
2月	0名	3名	3名	6名
3月	0名	3名	3名	6名

介護予防・日常生活支援総合事業（在宅利用者） 平均利用者数 10名

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
4月	2名	5名	4名	11名
5月	2名	5名	4名	11名
6月	2名	4名	5名	11名

7月	2名	4名	5名	11名
8月	2名	5名	4名	11名
9月	2名	4名	5名	11名
10月	1名	4名	7名	12名
11月	1名	3名	7名	11名
12月	1名	3名	7名	11名
1月	1名	3名	8名	12名
2月	0名	0名	0名	0名
3月	2名	0名	6名	8名

内部研修報告

開催日	研修名
4/20	感染症対策（ガウンテクニック等）
5/25	高齢者虐待と防止策
6/15	介護現場で必要なコミュニケーション
7/13	接遇マナー
8/9	記録・モニタリング
9/21	介護保険制度と訪問介護サービス／抗原検査の実施方法
10/25	緊急時対応（AED講習）
11/16	医学的知識とフィジカルアセスメント
12/21	クレーム対応の基本と実際
1/25	認知症に関する理解
3/16	令和3年度の業務振り返り

令和4年2月度は新型コロナウイルス罹患者対応の為、内部研修を中止。

ホームヘルパーステーション東雲（障害者自立支援・居宅介護） 事業実績報告

令和元年11月2日以降、稼働実績がございません。事業所としては、ヘルパーステーション東雲と兼任業務となる為、対応可能な曜日・時間帯を相談支援事業所へ案内し利用者の獲得に努めて参ります。

令和3年度利用実績 なし

障害者自立支援 ※令和元年11月2日を最後にサービス利用終了。

ケアプランセンター東雲 事業実績報告

令和3年6月より3名体制となり、9月より特定事業所加算Ⅲを取得しております。近隣の包括支援センターより新規の依頼もあり、件数は増えてきておりましたが、併設するサービス付き高齢者向け住宅

において新型コロナウイルス罹患者が発生し令和4年1月末から3月上旬にかけて新規対応は自粛致しました。引き続き、担当件数の上限35件を目指しております。

特定事業所として中重度者や支援困難ケースへの積極的な対応や、専門性の高い人材の確保、質の高いケアマネジメントを実施し、地域における居宅介護支援事業のケアマネジメントの質の向上に資することを目的とされているため、今後も職員一人一人が自己研鑽し、地域とつながり、選ばれる事業所となることを目標とします。

(重点目標と課題)

1. 3名体制の継続
2. 1人辺り担当件数35件
3. 特定事業所としての質を確保するために市や町の連絡会、各職能団体が主催する勉強会、事例検討会、研修への積極的な参加。事業所内において困難ケースの情報共有の為の会議、勉強会を通じて質の向上を図ります。

令和3年度 利用者実績 平均担当件数 71.1名

	要介護1	2	3	4	5	合計	要支援	給付管理件数
4月	20名	22名	9名	6名	3名	60名	15名	67.5名
5月	20名	24名	8名	6名	6名	61名	15名	68.5名
6月	21名	20名	8名	5名	5名	59名	15名	66.5名
7月	24名	19名	6名	6名	5名	60名	14名	67名
8月	25名	18名	8名	4名	6名	61名	14名	62名
9月	23名	20名	6名	6名	7名	62名	16名	70名
10月	22名	20名	5名	6名	9名	62名	16名	70名
11月	26名	22名	5名	8名	8名	69名	16名	77名
12月	27名	22名	5名	6名	9名	69名	16.5名	77.5名
1月	26名	24名	5名	6名	8名	68名	15名	75.5名
2月	25名	21名	5名	5名	7名	63名	16名	71名
3月	27名	27名	7名	5名	7名	73名	16名	81名

(実績のある利用者のみを記載。要支援認定者は2名で1件とする)

会議・研修等受講報告

受講月日	研修名	実施主体	参加者
6/17	令和3年度介護報酬改定について	宮城県ケアマネジャー協会 塩釜支部	三浦・渡邊
8/11	利用者と支援者の関係性	//	渡邊
9/30	ケアマネジメントの基本	//	三浦・渡邊
10/11	新型コロナの今だからこそ介護事業者の横のつながりセミナー	//	阿部・三浦・渡邊

10/12	多職種連携を目的とした勉強会	//	阿部・渡邊
11/25	アセスメントについて	//	阿部・三浦・渡邊
12/14	2市3町リハビリテーション座談会	//	阿部・三浦・渡邊
1/27	アセスメントについて	//	三浦・渡邊
2/6	アセスメントの理解と知識の習得	//	渡邊
2/17	個人情報保護 守秘義務 秘密保持	//	三浦・渡邊

塩釜市ケア連絡会 6/17 9/29 12/9 3/18

七ヶ浜町ケア連絡会 5/21 7/16 9/17 11/19 1/21 (書面のみ) 3/18 (書面のみ)

多賀城市ケア連絡会 7/28 10/13 3/22

他法人と協同での事例を使った勉強会・研修

- 1 アースサポート多賀城・塩釜合同 7/13 7/21 11/11
- 2 ソーシャルライフプラス ケアステーションしおかぜ 悠泉居宅 仙塩病院居宅
利府町社会福祉協議会 6/24 7/26 9/24 9/28 11/5 11/30
- 3 萩の里介護支援センター アークケア清楽苑 10/28 2/17

毎月1日 ケアプランセンター東雲事業所内ミーティング

毎週木曜日 情報伝達会議

サービス付き高齢者向け住宅東雲 事業実績報告

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、館内への入館制限、各種行事の自粛等、制約が多い中での事業運営となりました。令和4年1月末日から3月上旬の間に入居者5名が新型コロナウイルスへの罹患が確認され、期間中は入居者、職員においても保健所の指示を受けながら対応致しました。

- ・食事の面においてはグループ会社が運営するレストランフェニーチェと都度協議を重ね、趣味趣向、体調に応じた細かな献立作りを心掛けました。
- ・施設設備の破損や異常において速やかに修繕を行い入居者の安全確保に努めました。
- ・年2回(12月・3月)と消防訓練を実施し、災害時に職員が迅速な対応を取れるよう努めました。
- ・感染症や食中毒等が発生することなく本年度を終えることができました。引き続き、常時来館者に対する手指消毒、マスク着用の推進、職員の体調不良者に対する対応等、感染症予防に自覚的取組んで参ります。

令和3年度利用実績

入居者の要介護度別平均年齢 平均介護度 1.79 平均年齢 87.1歳

	自立	事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均
男	87歳	-	88歳	85歳	88歳	77歳	89歳	94歳	-	86.8歳
女	88歳	86歳	-	90歳	85歳	86歳	86歳	91歳	-	87.4歳
平均	87.5歳	86歳	88歳	87.5歳	86.5歳	81.5歳	87.5歳	92.5歳	-	87.1歳

全居室数 30室 平均稼働率 98.45%

月	稼働居室数	稼働率	月	稼働居室数	稼働率
4月	29/30室	96.7%	10月	30/30室	100%
5月	29/30室	96.8%	11月	29/30室	96.7%
6月	30/30室	98.2%	12月	29/30室	96.7%
7月	30/30室	98.0%	1月	30/30室	98.3%
8月	30/30室	100%	2月	30/30室	100%
9月	30/30室	100%	3月	30/30室	100%

※最大稼 30室×暦日数 ※実績率 在室数×日数-空室数×日数 により算出。

ケアプランセンター抱優 事業実績報告

安心して住み続けることができる地域社会にはさまざまな社会資源が必要です。ケアプランセンター抱優は、介護が必要であっても、認知症になっても、住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できることを共に考える居宅介護支援事業所を目指し活動してきました。

今年度は、職員体制1名、また、事業所を5月より特別養護老人ホーム抱優館八乙女内に移動しての事業展開となりました。介護保険の改正に伴い、ICTの活用をすることで、担当件数の増を図り、事業安定に取り組みました。また、コロナ禍の中、感染症対策に努め、不測の事態に事業継続できるように工夫をしながらの1年でした。

今年度の実績は以下のとおりです。地域包括支援センターや病院とさまざまな機会を通じて、連携を深める取組みの結果、担当可能な上限の利用者を担当することができました。今後も、関係各機関との連携を深め、新規利用者の紹介を受けていくと共に、できるだけ長く安心して在宅で生活が継続できるケアマネジメントを実践していきます。

	要介護 1	2	3	4	5	合計	要支援	担当	新規	終結・ 入院
4月	21	13	8	1	0	43	5	48	1	0
5月	20	13	8	1	0	42	4	46	0	2
6月	20	14	8	1	0	43	4	47	0	0
7月	19	12	9	2	0	42	4	47	0	0
8月	18	13	10	3	1	45	3	48	3	0
9月	16	14	11	3	1	45	3	48	1	1
10月	15	15	11	4	1	46	1	46	1	0
11月	14	14	10	4	1	43	1	44	0	1
12月	14	14	10	4	0	42	1	43	0	1
1月	15	14	8	3	0	42	1	43	1	1
2月	16	14	8	3	0	41	0	41	1	2
3月	16	14	7	3	0	40	0	40	0	1

会議・研修等受講報告

受講月日	研修名	実施主体
6/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター

7/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
11/2	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
11/11	認知症介護オンラインセミナー	認知症介護研究・研修センター
12/3	なないろカフェ	加茂・虹の丘地域包括支援センター
1/14	他法人合同事例検討会	仙台徳洲会介護センター他
2/9	加茂介護予防教室	虹の丘地域包括支援センター
2/11	ケアマネ協会オンライン研修	宮城県ケアマネジャー協会
2/17	なないろカフェ	虹の丘地域包括支援センター

やまとみらい八乙女保育園 事業実績報告

令和3年度は0歳児0名、1歳児8名、2歳児7名、計15名の定員を割るスタートとなりました。空き保育室を1歳児低月齢児の保育に利用する他、一時預かり保育の受け入れ年齢を下げ満1歳からの受け入れに変更し0歳児入所までを補いました。卒園後の行き先確保として近隣保育園との連携準備をすすめ新たに3園と連携を組む事になり、保護者が抱える卒園後の不安解消に繋げることができました。昨今、0歳児入所希望の減少が著しくなっておりますが7月ごろから動きがある為、常に受け入れ態勢を整え、園見学だけでなくホームページで園の様子を発信して入園へ繋ぎ、安定した運営に努めてまいります。今年度は新卒職員1名が入職し、職員教育に力を入れながら自分達の保育の振り返りをしっかりと行い、子ども主体の保育に重点を置いたひとりひとりが安心して過ごせる環境づくりを大切にして参りました。今後も職員の質の向上に取り組み、園児、保護者が安心して過ごせる保育園作りに努めてまいります。

【やまとみらい八乙女保育園利用実績】

定員 19名

月	入園児数（一時預かり数）			退園児数			合計
	0歳児	1歳児	2歳児	0歳児	1歳児	2歳児	
4月	0	8	7(1)	0	0	0	15名(1)
5月	0	8	7(1)	0	0	0	15名(1)
6月	0	8	7(1)	0	0	0	15名(1)
7月	1	8(1)	8	0	1	1	17名(1)
8月	3	7(1)	7(1)	0	0	0	17名(2)
9月	4	8	7	0	0	0	19名
10月	4	8	7	0	0	0	19名
11月	4	8	7	0	0	0	19名
12月	4	8	7	0	0	0	19名
1月	4	8	7	0	0	0	19名
2月	4	8	7	0	1	0	19名
3月	4	8	7	0	0	0	19名

【各種会議開催状況】

保育園全体の連携や各職種連携のため次の会議を開催し、業務の改善を図った。

会議名	議題	開催日	構成メンバー
管理者会議	現状報告、情報連絡、 課題提起・検討、収支	4/9、5/12、6/11、7/9、 11/12、12/10、1/14、	理事長、事務局 長、総務課長、総

	報告		務係長、各事業管理者
職員会議	保育・給食状況報告、 行事反省、次月予定、 課題提起・検討、情 報・意識の共有	4/12, 5/12, 6/2, 7/7, 8/4, 9/7, 10/7, 11/5, 12/7, 1/5, 2/8, 3/8	園長、保育士、保 育従事者、栄養 士、調理員
給食会議	現状報告、情報連絡、 課題提起・検討	4/19, 5/14, 6/9, 7/13, 8/20, 9/20, 9/10, 10/11, 11/19, 12/13, 1/7, 2/21, 3/16	園長、保育士、栄 養士、調理員

【各種外部会議・行政主催研修参加状況】

保育のスキルアップや情報交換、小規模保育制度の理解を深めるため、以下の研修等に参加した。

開催日	名称	参加者	主催者
5/30	施設長研修	園長	仙台市子供未来局
6/16	保育所施設長研修	園長	宮城県保育協議会
7/14	公立保育所職場内研修 (OJT)	保育士	黒松保育園
7/15	栄養士研修	栄養士	仙台市子供未来局
10/2	中堅保育士研修	保育士	宮城県福祉協議会
10/4.5	市民セミナー	保育士	仙台市子供支援センター
11/2	特別支援研修	保育士	仙台市子供未来局
11/11	初任保育士研修	保育士	宮城県保育協議会
11/17	中堅保育士研修	保育士	宮城県保育協議会
12/15	子育て支援関係者研修	保育士	宮城県社会福祉協議会
12/1～ 1/10	保育士キャリアアップ研修	保育士	仙台市子供未来局
1/17	保育所施設長研修	園長	宮城県保育協議会

やまとみらい南光台東保育園 事業実績報告

2年目となる令和3年度は、0歳児9名・1歳児10名・2歳児19名・3歳児10名・4歳児10名・5歳児6名の計64名でスタートしました。2年目で定員を超えた応募があり、人数的に問題は無いのですが、3歳以上児においては、途中入園はなかなか無く、5歳児は、6名での卒園となりました。また、2年目に地域の特色として見えてきたのが、南光台エリアは、幼稚園・認定こども園が多く、「3歳児からは幼稚園で」という流れが保護者の考えに定着しているようで、3歳児の移行が数件ありました。この流れを止め、保育園に定着してもらえよう、園の行事や特徴ある保育を確立し、「卒園まで預けたい保育園」を目指していきたいと思います。また、随時園見学を受け入れていくわけですが、今年度は、広く保育園を知って頂く為、ホームページの作成にも取り組んでいきたいと思っています。

昨年度ほとんどが中止となった研修会が、今年度は、リモートを中心に開催されました。実りある研修を、全員で共有できるように、職員会議で伝え合い、保育の質の向上を目指しました。職員会議・リーダー会・部分会・給食会議・クラスミーティングも、毎月定着しており、職員の声を拾い「皆で作上げる保育園」「全員で全園児をみる保育園」を目指しています。

今年度もコロナ対策に追われた一年でした。行事においては、今年度も引き続き、その都度形を変え開催してきました。しかし、1月の保育参観の時期には今までにない感染者数の増加。対策をするより何より、園内に人をいれる状況になく開催を中止し、入室制限や登園自粛を呼びかける事態となりました。今後も、様々な状況を想定し、行事を確立する必要があると考えさせられました。

安心で安全な保育園を目指し実施している避難訓練や防犯訓練。消防署や警察署の協力を得て行うことで、より緊張感のある訓練を行う事ができました。今後も、続けていきたいと思っています。

今年度は、4件の通院を要する怪我がありました。内、2件は大事を取り「安心を得るため」の通院。他2件は、自由遊びの際、転倒などによる軽傷です。今後も園児の運動能力の向上・見守り・環境整備に努め、安心で安全な保育に努めてまいります。

【やまとみらい南光台東保育園利用実績】定員60名

月	入 園 児 数						退園児	合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
4月	9	10	19	10	10	6	0	64名
5月	9	10	19	10	10	6	0	64名
6月	9	10	19	10	10	6	0	64名
7月	9	10	19	10	10	6	0	64名
8月	9	10	19	10	10	6	0	64名
9月	9	10	19	10	10	6	0	64名
10月	9	10	19	10	10	6	0	64名
11月	9	10	19	10	10	6	1	64名

12月	9	10	18	10	10	6	0	63名
1月	9	10	18	10	10	6	0	63名
2月	9	10	18	10	10	6	0	63名
3月	9	10	18	10	10	6	0	63名

【各種会議開催状況】

※保育園全体の連携や各職種連携のため、次の会議を開催し業務の改善を図った。

会議名	議題	開催日	構成メンバー
職員会議	保育現状報告 意識の共有 行事計画・反省 課題提起・検討	4/28、5/24、6/24、7/28、 8/20、25、9/27、10/29、 11/24、12/24、1/26、2/22、 3/25	園長、主任、保 育士、栄養士
リーダー会議	部分会からの検討 情報連絡 課題提起・検討	4/6、5/10、6/8、7/8、8/6、 20、9/8、10/8、11/8、12/6、 1/6、19、2/9、14、21、3/3	園長、主任、 リーダー
部分会	クラスからの提案 行事について 現状報告	4/5、5/6、6/4、7/6、8/4、 9/3、10/5、14、10/4、11/5、 12/1、1/5、2/2、3/1	リーダー、 各クラスの代表
クラス会	現状把握・共有 課題提起・検討 指導計画・反省 個別指導計画・反省	4/9、19、21、22、5/12、13、 18、19、6/7、9、11、17、 7/14、19、20、21、8/10、 11、17、19、9/10、13、15、 17、10/12、20、21、11/16、 17、18、22、12/15、16、20、 21、1/7、11、14、17、2/14、 15、16、17、3/14、16、18、 22	各クラス担任
給食会議	現状報告 情報連絡 課題提起・検討	4/23、5/20、6/18、7/22、 8/18、9/29、10/28、11/19、 12/22、1/19、2/21、3/23	園長、主任、栄 養士、リーダー 各クラスの代表

【各種外部会議・行政主催研修参加状況】

※保育のスキルアップや情報交換、保育制度の理解を深めるため、以下の研修等に参加した。

研修日	名称	参加者	主催者
7/21	保育所長研修会	園長	仙台市保育所連合会
10/14	保育所長研修会	園長	仙台市保育所連合会
9/7	主任保育士等研修会	主任保育士	仙台市保育所連合会
11/9、12/13 12/22	キャリアアップ研修 教育の意義・環境 等	保育士	宮城県社会福祉協議会

11/11	主任保育士等研修会	主任保育士	仙台市保育所連合会
8/24	中堅保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
6/23	初任保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
7/26	初任保育士等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
9/6	栄養士研修会	栄養士	仙台市保育所連合会
5/27	乳児保育士研修会	保育士	仙台市保育所連合会
6/8	乳児保育士研修会	保育士	仙台市保育所連合会
6/14	障害児等研修会	保育士	仙台市保育所連合会
9/1	給食担当者研修会	栄養士	仙台市保育所連合会
全8回	コーディネーター研修会	主任保育士	宮城県社会福祉協議会
7/16	中堅保育士研修会	保育士	宮城県保育協議会
9/16	新人保育士研修会	保育士	仙台市私立保育所協議会

※新型コロナウイルス感染症流行のため、殆どの研修がリモート研修となる。

就労移行・定着支援事業所オルタハ乙女 事業実績報告書

昨年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染予防対策に注力しながらの運営となりましたが、法人・利用者・職員の皆さまのご協力により、事業所に関わる感染の影響はなく、無事に終えることが出来ました。

訓練においては、コロナ禍の影響からタオル折り訓練の委託契約が終了となったり、抱優館南光台東の清掃訓練も停止となる等、訓練方法や内容について変更調整の対応に追われた1年でもありました。しかし、視点を変えれば、これまでのカリキュラムを見直し、今の体制や利用者像に合った効果的な訓練カリキュラムを再検討する良い機会ともなっています。

作業系の訓練では、新たにポスティングの委託契約が加わった他、多くの協力企業様から訓練用の作業をご提供頂き、利用者の皆さんはモチベーション高く訓練に取り組まれています。また、これまで少なかった事務系の訓練や講座の系統化や充実化にも力を注いでいます。

「企業交流会」「企業担当者様による講座」「企業での作業体験」「先輩の職場を訪問しよう」等、様々な企業様との連携も継続。

新規利用者に関しては、関係支援機関からの紹介が安定。就職実績および職場定着実績も前年度同様の高さを保つことが出来ています。

来年度も、職員個々の強みを活かした役割分担、業務の効率化や職員の支援力アップにつなげるための工夫を重ねつつ、利用者の皆様の夢（就職と安定）の実現に向けて最善の支援を提供し、成果を出すことをもって、健全且つ自立的な安定運営と財務基盤の向上を目指してまいります。

[登録者数、月平均利用人数]

就労移行 *平日よりも利用人数が少ない土曜開所も含めて平均利用人数を出しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者	18	18	16	14	16	26	30	31	18	17	17	16
平均	13,4	12,2	11,9	11,7	12,5	15,5	16,5	15,1	14,0	14,5	12,8	12,9

就労定着

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者	8	8	8	8	11	11	10	10	12	12	12	12

[各種会議開催状況]

外部会議・研修

日時	研修内容	主催
4/16	令和3年度春季精神保健福祉援助実習 実習連絡会	東北福祉大学教務部福祉実習支援室
6/15	よめごと会議	泉区自立支援協議会
6/18	令和3年度春季精神保健福祉援助実習 実習連絡会	東北福祉大学教務部福祉実習支援室

6/28～ 10/31	令和3年度宮城県障害者相談支援従事者初任者研修	宮城・仙台障害者相談支援従事者協会
8/10	令和3年度精神保健福祉基礎講座（初任者研修）	仙台市精神保健福祉総合センター
10/1	精神保健福祉スキルアップ研修「ヘップトーク」	仙台市精神保健福祉総合センター
11/24	令和3年度第1回就労移行支援事業所連絡会議	仙台市障害者就労支援センター
11/24	令和3年度ジョブコーチ支援事業推進協議会	宮城障害者職業センター
12/21	よめごと会議	泉区自立支援協議会
2/28, 3/1	令和3年度指定障害福祉サービス事業者等の集団指導	仙台市障害者支援課指導係
3/16	令和3年度精神保健福祉スキルアップ研修	仙台市精神保健福祉団体連絡協議会
3/15	令和3年度第3回精神保健福祉援助実習 実習連絡会	東北福祉大学教務部福祉実習支援室

所内研修

	研修内容	出席者
5/12	新型コロナ BCP 研修	職員全員
5/19	感染症予防のための対策検討委員会	
5/19	大塚製薬(株)による職員研修（統合失調症）	
6/2	感染症対応訓練（シュミレーション）	
6/4	防災訓練	
6/23	大塚製薬(株)による職員研修（バーチャルセッション）	
7/7	体調衛生管理研修、食中毒予防委員会	
7/21	大塚製薬(株)による職員研修（双極性障害）	
9/8	大塚製薬(株)による職員研修（アルコール依存症）	
10/6	安全運転管理研修	
11/10	防災講座	
11/17	大塚製薬(株)による職員研修（うつ病）	
12/15	大塚製薬(株)による職員研修（自閉症スペクトラム症）	
2/9	個人情報保護研修	
3/9	障害者権利擁護研修、虐待防止、身体拘束適正化のための対策検討委員会	

内部会議

会議名	議 題	開催日	構成メンバー
ケース共有	・ 訓練状況、利用者の情報共有および対応の検討 ・ 業務連絡、翌日の予定の確認	毎日 17:30～18:00	全職員
打合せ	・ 運営について、業務、職員および利用者に関する こと全般	毎週(水) 15:00～16:00	管理者 サビ管
職員会議	・ カリキュラム内容の調整、運営、役割分担、日程調 整 ・ 支援方法、情報、意識の摺合せ	第1(水) 16:00～17:00	全職員

・個別支援計画	最終（水） 16:00～17:00
---------	----------------------

ワインフォレストセツ森 事業実績報告

就労継続支援 A 型・B 型事業所 ワインフォレストセツ森は事業開始から 2 年が経過しました。

今年度も株式会社みらいファームやまと様より受託頂いているレストランの厨房での業務を中心として、農福連携の葡萄畑やにんにく畑での農作業、自主事業として薪や炭の製造／販売、ケーキや菓子類の食品加工など様々な作業をご利用者に提供して参りました。新たな作業として、1 月より抱優館八乙女での館内清掃作業を受託し開始しています。また、柴田町の花弁農家よりハウス内での作業を受託予定でご利用者の体験や仕事の切り出しを進めています。

新型コロナウイルス対策では、出勤時の検温と手指消毒の徹底、送迎中の車内の換気やエチケットルールを策定し、ご利用者様にもそのルールを遵守頂いたこともあり、職員およびご利用者の新型コロナウイルス感染の事例もなく事業運営をおこなうことが出来ました。

ご利用者の状況としては、期首に A 型 13 名、B 型 5 名の計 18 名でスタートしましたが、A 型 3 名、B 型 1 名の退所にともない、期末で A 型 10 名、B 型 6 名の計 16 名の在籍となりました。

今期は各支援学校より 9 名の実習を受け入れることができ、そのうち A 型で 1 名、B 型で 4 名のご利用開始が決まっております。支援学校以外からも見学や体験利用等の問合せを多数頂き、認知度の高まりを感じるところですが、新型コロナウイルスの影響もあり、期中のご利用開始となったのは B 型で 2 名となりました。来期期首の稼働率は全体で 80%程度になる見込みとなっております。

当期の振り返りとしては、順調にご利用者の登録数や委託業務が増える一方で、ご利用者それぞれの特性に合わせた支援を十分に行える体制を構築できたかという点、必ずしも万全ではなかったように思えます。指導員が担当している部門のご利用者様だけではなく、全利用者様に対して職員全員が支援計画の目標を共有し、支援スキルや知識の向上を図っていく必要があります。次年度は事業所内の勉強会の開催や外部研修に積極的に参加していきます。

[サービスの状況（令和 4 年 3 月 31 日現在）] 定員 20 名（A 型：10 名、B 型 10 名）

(1) サービス区分毎登録利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
就労継続支援 A 型	13 人	13 人	12 人	12 人	12 人	12 人	12 人	12 人	11 人	10 人	10 人	10 人
就労継続支援 B 型	5 人	5 人	5 人	4 人	4 人	4 人	5 人	6 人	6 人	6 人	6 人	6 人
合計	18 人	18 人	17 人	16 人	16 人	16 人	17 人	18 人	17 人	16 人	16 人	16 人

(2) サービス区分毎地区別登録者数

	大和町	大郷町	富谷市	仙台市	合計

就労継続 支援 A 型	1 人	1 人	1 人	7 人	10 人
就労継続 支援 B 型	3 人	1 人	1 人	1 人	6 人
合計	4 人	2 人	2 人	8 人	16 人

(3) サービス区分毎年齢別登録者数

	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50 歳~	合計
就労継続 支援 A 型	4 人	3 人	1 人	1 人	1 人	10 人
就労継続 支援 B 型	3 人	1 人	1 人	0 人	1 人	6 人
合計	7 人	4 人	2 人	1 人	2 人	16 人

(4) サービス区分毎利用者稼働状況

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	最大利用日数/月	22 日	23 日	20 日	23 日	22 日	21 日	23 日	22 日	21 日	22 日	20 日	22 日
100% 稼働時	A 型	220 人	230 人	200 人	230 人	220 人	210 人	230 人	220 人	210 人	220 人	200 人	220 人
	B 型	220 人	230 人	200 人	230 人	220 人	210 人	230 人	220 人	210 人	220 人	200 人	220 人
延べ利 用者数	事業所 合計	440 人	460 人	400 人	460 人	440 人	420 人	460 人	440 人	420 人	440 人	400 人	440 人
	延べ 利用者数	213 人	213 人	209 人	212 人	194 人	206 人	207 人	199 人	169 人	141 人	150 人	175 人
就労継 続支援 A 型	稼働率	96.8%	92.6%	104.5%	92.2%	88.2%	98.1%	90.0%	90.5%	80.5%	64.1%	75.0%	79.5%
	延べ 利用者数	72 人	60 人	56 人	54 人	45 人	48 人	54 人	74 人	82 人	68 人	86 人	96 人
就労継 続支援 B 型	稼働率	32.7%	26.1%	28.0%	23.5%	20.5%	22.9%	23.5%	33.6%	39.0%	30.9%	43.0%	43.6%
	延べ 利用者数	285 人	273 人	265 人	266 人	239 人	254 人	261 人	273 人	251 人	209 人	236 人	271 人
事業所 合計	稼働率	64.8%	59.3%	66.3%	57.8%	54.3%	60.5%	56.7%	62.0%	59.8%	47.5%	59.0%	61.6%

[各種会議開催状況]

内部会議

会議名	議 題	開催日	構成メンバー
職員ミーティング	・利用状況、利用者の情報共有および対応の検討 ・業務連絡、月間予定の確認	毎月第二月曜日 17:30~18:00	全職員

外部会議・研修

日時	会議内容・研修内容	主催他
7/27	サービス管理責任者等基礎研修 (7/27、7/28、8/16、8/17)	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

事業報告の付属明細書

令和3年度の事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人やまとみらい福社会
理事長 早坂 了悦

